

住民説明会要旨

- 1 説明会 新処理施設等の整備に関する住民説明会
- 2 開催日時 令和5年2月20日（月）午後7時から午後8時25分まで
- 3 開催場所 平泉町学習交流施設エピカ
- 4 参加者 24人
- 5 事務局

青木幸保副管理者、石川隆明副管理者、佐藤正幸事務局長、吉田健総務管理課長、菅原彰一関清掃センター所長、蜂谷敏志大東清掃センター所長、菊池弘総務管理課施設整備係長、石川勝志総務管理課主任主事、一般財団法人日本環境衛生センター3名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 前回までの住民説明会の内容
- (2) 施設整備基本計画の策定
- (3) エネルギー回収型一般廃棄物処理施設の検討状況
- (4) マテリアルリサイクル推進施設整備の検討状況
- (5) 一般廃棄物最終処分場整備の検討状況

7 あいさつ

本日は新処理施設等の整備に関する第8回目の住民説明会になる。このことに関しては広報で逐次お知らせしてきた。昨年には新最終処分場の建設候補地を違う場所にしてほしいという請願が提出されたが、組合議会では慎重審議され、組合としても様々な角度から今まで進めてきた内容をしっかり精査し、住民に対してしっかり説明をさせていただいてきた。また、これを実際に進める中でスケジュールのずれが生じてきたことも事実である。そういった中で慎重審議された結果として請願は不採択とはなったが、今後もさらに住民に説明して理解をいただきながら進めさせていただくこととしている。今後の予定としては、ずれが生じてきている部分もあるが、予定通り整備しなければならないという喫緊の課題でもあるので、そのようなところも踏まえて今後の進め方をしっかり住民の皆さんに繋ぎながら、よりよい施設となるよう進めてまいりたい。本日は忌憚のないご意見をお願いしたい。

8 説明内容

- (1) 前回までの住民説明会の内容
配布資料に沿って事務局が説明を行った。
- (2) 施設整備基本計画の策定

配布資料に沿って事務局が説明を行った。

(3) エネルギー回収型一般廃棄物処理施設の検討状況

配布資料に沿って事務局が説明を行った。

(4) マテリアルリサイクル推進施設整備の検討状況

配布資料に沿って事務局が説明を行った。

(5) 一般廃棄物最終処分場整備の検討状況

配布資料に沿って事務局が説明を行った。

9 質疑応答

【エネルギー回収型一般廃棄物処理施設について】

参加者 施設を建設する場所の生態系の調査は行っているのか。

事務局 令和3年度から環境影響評価に着手し、現在は現況調査を実施中である。

参加者 調査の結果は今のところはどうなっているか。

事務局 希少な動植物が見つかっているという報告をいただいております、それらの結果を踏まえて保全区域を設けてはどうかといったことを検討している。通年の調査結果がまとまるのはこれからとなる。

【一般廃棄物最終処分場について】

参加者 建設場所について、私は千厩町から来ており反対の立場でこれまで頑張ってきたが、請願が否決されたということで非常に残念な思いをしていた。今日ここに来たのは仕事の都合もあるが、平泉地区の方がたくさんいる中で話してみたいということもあり、多少時間を頂戴したい。配布資料の最終処分場の写真では一見見るとかなり山の中に見えるが、インターネットなどで少し遠めから地図を見ると市街地がすごく近い。1km圏内に小中高、少し超えたものもあるが、老人ホームや警察署、スーパー、千厩駅といった公共施設等や学生がいるところがすべてそろっている。市街地の中心とは言わずとも隣という状況である。何度か管理者、副管理者に説明を求めたが、数ある候補地の中でここを選定した理由はどうかという問いに対しては専門家の先生方がここを選んだからであると。結局その説明のあとはいかに安全かという説明があり、明確な回答はなかった。大体この最終処分場を選定する際の評価項目は、他自治体であれば必ず住民との合意や住宅地、学校との距離というものが評価項目に入っているが、今回は全くそれが入っていなかった。数ある候補地の中で市街地の横、特に学生、子供たちを心配しており子供たちへの影響が大きいと私は考えるが、そういったところを選定した理由、大学の先生方が選んだからというだけではなく、そこに行政として合意した根拠があれば伺いたい。それから住民合意について評価項目に入っていない

いので、これまで住民合意はしてこなかったという回答を一度いただいているが、その後の動きがあったか、或いはこれから考えているかについて伺いたい。

事務局 市街地に近いということであったが、これまでも説明してきており、候補地選定の考え方は、どこに作るかではなくどのような施設であればいいか、これはこれからのことを一番に考え、新しい時代にふさわしい施設とはどのようなものかということをもまず考え、そのためにはどこがよいかというプロセスで選定をしてきた。住民への理解と合意ということでは、大学の先生等で組織した選定委員会で4箇所まで選定したが、4箇所から選定する際には各候補地で説明会を行い、どのような手法で1箇所に絞り込んだらよいかということも地域の皆様と話をしながら絞り込みの評価項目を定めてきた。組合から案を示して住民の皆様からこういう評価項目も入れて欲しいというお話しをいただき、項目に反映しながら選定をしてきており、全く住民合意を考えずに進めてきたものではなく、住民の皆様との話し合いの中で進めてきたという認識である。管理者も説明会で話をしてきているが、住民との合意というものが何をもちて合意かという話は、どの範囲の住民がどういう形で持って合意とみなすのか、その辺がまだわからないのでお答えはできないといったお話しはしたが、住民の皆様の理解を求めていく必要があると思っている。そのために具体的に調査など行いながら、説明会でも不安に思っているという声をいただいているので、どうしたらその不安を軽減、解消できるかを考えながら進めていく必要があると思っているので、これらのことを一つ一つ進めて参りたいと考えている。また、周辺への影響であるが、全国に最終処分場は数多くある。災害時の方が一の不安という話もいただいているが、これまで全国の事例において災害で崩れたといったことや人への影響があったといった事例は発生していない。説明会では100%ではないという話を参加者からいただくが、可能性とすれば非常に少ないと認識している。そのようなことをご理解いただけるような取組を進めていきたい。

参加者 前段に話があったが、結局合意は得られたと考えていないということか。何をもちてという話もあったが、端的に言って得られたのか、得られていないのか。

事務局 住民合意というものをどのような形で捉えるかである。一関市、平泉町の住民の皆さん全員を住民として捉えて判断するのか、千厩地域の方を住民として捉えて判断するのか、その辺がはっきりしていないということであり、一概にこうであると言える状況にないというお答えをさせていただいている。

参加者 こういう場合、当事者は千厩の方、候補地の近くの方になると思うが、そこで合意を得られないと駄目だと思う。冒頭のあいさつでも理解を進めるという話も

あったが、現状はたくさん署名も集まり、私は平泉に住んでおりある意味当事者ではないという側面と、広域行政であるので当事者であるという側面もあるが、少なくとも千厩の方々には理解されておらず合意できないというのが正しい見方ではないかと思うがいかがか。

事務局 組合としては、ごみの問題については一関市、平泉町の皆様に当事者として考えていただきたいという思いがある。千厩地区の住民だけが当事者ではなく、この圏域の皆様を当事者として話をさせていただくというのが基本的な考えである。請願や署名を提出いただき、報道等でもご覧いただいていると思う。そういう中でこれまではなかったが、組合に対し、「きちんと手続きを踏んで進めてきているので、計画通りに進めるべき」という意見もいただくようになってきている。そういう意味では、住民の理解は少しずつではあるが進んでいるのではないかと思う。そのような話はなかなか組合には届かないところではあるが、そういうお話をいただけるということは、潜在的には多くの方がそのような考えを持っているとも捉えられるのではないかと思っている。

参加者 若手世代は千厩町に最終処分場が来るという話自体は聞いたことがあり、それについては特段強い反応を示さなかったが、共通していたのは千厩町であっても別に構わないが市街地につくるわけがないという性善説的な思いから、子育てに追われて候補地を確認したりすることはしなかった。最終的に決まりそうとなったときに動き出した方々がいて、請願も提出されたので私たちも知ることができた。反対の意見はどんどん増えて、年末から今にかけて当時よりもかなり多くの反対の意思が出ている。よって合意、理解を得られたという行政側の理解は、理解した方もいるかもしれないが、間違っているのではないかと思うし、地権者との合意をもって説明会だけ繰り返せばつくってよいとなれば、一関市のどこにでもつくってよいという前例になってしまう。千厩も千厩でなければよいというわけではなく、その地域、人がいての行政で、人がいての町であるので、安全な施設であることは当然の前提として、その町の皆さんにリスクの少ないところを選定すべき。地域の皆さんや広域行政の皆さんにどのような影響があって、どういう状況でどこにつくればいいのか、沖縄県と同じような範囲のある中で、なぜここなのか、そういった疑問点がないことにびっくりしている。組合としては説明会を繰り返すことで合意というように考えているのか。合意形成はどこまでを想定しているのか。わからないという回答ではなくてどこまでが合意形成だと今のところ想定しているかというのを聞きたい。

事務局 合意形成であるが、今は手探り状態というのが正直なところである。皆さんか

らこういう状態が合意を得られた状況であるといった話をいただければ、そこからいろいろお話ができるかと思う。

副管理者 安全な施設であるという説明は何度か受けているということであった。逆に現候補地ではない方がよい理由として、例えば市街地に近い、教育施設に近いというお話を何度か受けている。そこが安全であることをまずは理解をいただいているのかどうか。なぜここでは反対であるという発想が出てきているのかを考えてみたときに、その施設の安全性というものをなかなか理解いただけていないのではないかということが一つ。もう一つは、廃棄物の最終処分場というものを心情的に、感覚的に嫌であるということの二つあるのではないと思っている。心情的に嫌であるものは、説明をして理解を得るといえるのはなかなか難しいかとは思いますが、安全性に不安があるという部分は、何が不安なのかをお尋ねしながら一つ一つについて説明をし、不安の解消に努めていくことが、最終的に住民の皆様方の理解を深めていく方法だということやってきている。どのような理由で反対であるかを明確にお話いただけると話が進んでいくのではないかと思う。ただし、何度も繰り返して恐縮であるが、この選定過程は一足飛びに選定したというものではなく、住民の皆様と会話をしながら、こういう手法で選んでいくことでよいかということを確認しながら、最終的に候補地を絞り込んだという経過であり、これは我々とすれば大切にしていきたいと考えている。

参加者 具体的に話をすると、不安である点はなくはないが、最新の技術で安全な施設をつくる、これについて疑っているわけではない。私たちが反対しているのは、どんな施設をつくる時もリスクは伴うものであり、絶対というのはいりえない。万が一の事態、想定外というのは起きるものである。そのときに住民に対して最も影響の少ない場所を選定する必要がある中で、市街地に近い。これを懸念している。いかに安全かというよりは、その施設をそこに置くことによるリスク自体は避けようがないので、これを懸念している。ここは新興住宅地で、千厩町で一番新築棟数が多いところである。父母会が一緒の方々が住んでいて、ここにずっと住もうというところの目と鼻の先である。これに対しての配慮が事前にあったのかというところ。まちづくりの観点である。何かちぐはぐである。まちづくりの観点で、ここに建設するという事は千厩町の文化が衰退する、死ぬということだと思う。千厩町の文化が死ぬというのは、部分的に一関市の文化が死ぬということであるので、文化のない町は衰退の一途となると考えている。若者がせっかく盛り上げようという地域を壊すようなことをして欲しくないと考えている。

副管理者 最後に話のあった千厩町が衰退するという話であるが、なぜ衰退するというように考えられるのか。それは先ほどの話に戻り、施設が地域のマイナス要素になるという前提があるためそのように思われるのではないかと思うが、何度も申し上げているとおりのような施設を作る気はない。そこは再度理解をいただきたい。

参加者 地域が衰退するような施設を作らないという点は解釈の問題なので、何とも言いようがないが、本当にセンスがない発言だと思った。これが町にとって衰退しないと解釈する人はいないと思う。これがまちづくりに影響しないとはっきりいえる方が副管理者だということに私はショックを受けた。解釈の違いなのでしょうがないと思うが、今日私がここに来たのは平泉町の皆さんにも、千厩町ではほとんどの方が反対で、非常に行政不信に陥っている。請願が不採択になったということもショックを受けている。千厩町だけではなく一関市全体として考えて欲しいというところにはかけるしかないという現状をわかっていただきたかった。

日環センター このような話はNIMBY (not in my backyard)というような言い方をする。必要性はわかるが自分の近くには嫌というもので、これは世界各所で起きている。本日は生活環境影響調査について説明があったが、これをなぜ行うかの説明として、廃棄物処理法で定められているから行うということでは不十分である。条文を読んでみるとその意味がわかる。施設の設置にあたって紛争が続いてきた。何か解決手段が必要ではないか。そうした紛争を予防しようという観点から、相互の理解を進めるためのツールが必要ということで生活環境影響調査が生まれた。行政側も生活環境影響調査を廃棄物処理法で定められているから機械的に行うということではなくその意義をきちんと理解して、住民側にもその意義を理解してもらって、それが機能するような生活環境影響調査とすることが重要ではないかと思う。その意義が十分発揮されるように、相互に工夫していくことが必要と思う。

【全体】

参加者 焼却施設の事業方式はDBO方式ということであった。設計、施工から管理まで一括ということだが、焼却炉の方式は何になるのか。焼却炉の種類がいくつかあると思うが、他の施設を視察した際に、炉の種類が決まっていると業者も決まってくる。そうすると管理に係るランニングコストなどは業者の言い値になってしまうという話を聞いたことある。また、最終処分場の関係だが、やはり合意が必要だろうと思った。時間はかかっても相当努力しなければいけないと思う。

事務局 焼却炉の形式はストーカ炉としている。

日環センター ストーカ炉は日本でも最も数が多く割合が高い非常にポピュラーな形式である。建設するプラントメーカーの数も非常に多い。これから事業者選定を行っていくが、数が多いので競争性を確保しながら公正に進めていくというのがこの事業の進め方であるということをご理解いただきたい。

参加者 最初に生態系などの調査を実施したか質問したのは、確かに生態系も大事だが、皆さんが施設をつくる時に動植物にどれくらい配慮するかというのは、地域住民にどれくらい配慮するかということにも結びつくと思うので聞いてみたところであった。調査は行っており一応それなりには考えているのだなと思った。こういう施設は、例えば私の家の近くにもし建設されるとなれば、やはり少し考える。最新鋭の設備でも或いはいかにすごい設備をつくったとしても、先ほども話があったが100%というのはなかなかないと思うからである。原発も然り、その他の公共施設もそうである。100%大丈夫、何重にも安全対策をとっているので大丈夫と、福島原発も六ヶ所村でも多分そう言ってきたと思う。でも結局は大震災が起きて大変なことになった。やはり100%はないので、いかに100%に近づけていくかというのが大事である。ただし、お金にも限りがあると思うのでどこまでできるかという問題もあるが、できる限り予算をとって最大限の努力をするということで地域住民を説得していくしかないのではないかと思う。それが例えば、言葉が悪いが強権的にごり押ししようとなれば沖縄の基地問題のようになってしまう。話し合いを重ねてやっていくしかないと思う。そこでどう折り合いをつけるか。そこが最終的なところだと思う。よく被災地に寄り添ってとか、住民に寄り添ってという言葉が、東日本大震災のときからあるが、今回も本当に地域住民、特に弥栄地区或いは千厩地区の人にいかに寄り添っていくかということをお大前提にして進めていってもらえもらいたいという意見である。

事務局 組合でも地域の方との話し合いをしながら進めていって、抱えている不安の声もいただいているので、この施設について理解を深めていただく、そのような取組をしながら進めて参りたいと考えている。

10 担当課 総務管理課